

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-09-03

なし

---

(発行年 / Year)

1910

第二節 所有權ノ取得

(理由) 既成法典ニハ財産取得條ナル一編ヲ設ケ其中ニ物權及ヒ債權ノ取得ニ共通ナル規定ナリ又所有權者ハ債權ノ取得ニ關スル規定アリト雖モ本案ニ於テハ財産取得ニ關シテ特ニ一編ヲ設ケサルヲ以テ此點ニ付テハ自ラ既成法典ト其体裁ヲ異ニセサルフトテ時ス即チ物權取得ノ通則ハ本編才一章ニ於テ之ヲ規定シ或物權ノ取得ニ特別ナル規定ハ本編才二章以下ニ於テ之ヲ揭ケテテ而シテ債權ノ取得ニ關スル規定ハ之ヲ才三章中ニ揭ケルコトトセリ

法典調査會

本節ハ即チ此方針ニ基キ所有權取得ノ方法ヲ規定シタルモノナリ尤モ所有權取得ノ場合ハ本節ノ外ニ其規定ナキニ非スト  
第五一、五三、一九三、一九六、二五一、二五四、二五八等) 他ノ條項中ニ於テ規定スルコトヲ至當トスヘキモノハ之ヲ着キ比ニ自ラ特種ノ性質ヲ有スルモノノミヲ規定セリ  
既成法典ニ於テハ本節中ニ掲グル所有權取得ノ方法ニ特別ノ名目ヲ附シ各々章ヲ分チテ之ニ干スル規定ヲ掲ゲタリト雖モ本案ニ於テハ其必要ヲ認めザルヲ以テ之ヲ削シテ蓋其條數多カテナルト遺失切ニ干スル規定ハ行政上ノ便宜ヲ計リ之

ヲ特別法ニ譲レンコトヲ欲シシハナリ  
大ニ既成法典中ニ於テ削除シタル條文及  
ヒ其削除ノ理由ヲ説明スヘシ

財産取得條亦三章ノ一項ノ中ニ規定ニ敢  
テ之ヲ明文ニ記載スルノ必要ナクハ一々

又其亦二項ノ中ニハ民法ノ範圍内ニ屬セ  
サルモノトス同亦四條ニ亦特別ニ之ヲ掲

ルヲ要セス蓋シ權利ノ概念ノ推定スヘク  
ラサルコトニ因ヨリ論ヲ俟テサレハナリ

同亦八條及ヒ亦十一條ヲ削除シタル理由  
ハ本章亦二百四十一條ニ於テ之ヲ説明ス

レシ同亦十二條ハ亦三條ノ一項ヲ削除シ  
タルト同一ノ理由ニ因リ特別ニ之ヲ設クル

ノ必要ナレシ同亦十四條ニ亦之ヲ掲グル  
要セス蓋シ添附ニ因リテ所有權ヲ取得ス

ルハ法律ノ規定ヲ俟テ始メテ生ズヘキ事  
實ノ事實ナルヲ以テ苟モ附合シタル物ニ

レテ分難ムルコトヲ辨ケキトキハ其又物  
ノ所有者ハ其分難ヲ請求レ且ク損害アル

ハ其賠償ヲ請求スルヲ許シキコト論ヲ俟  
テサレハナリ同亦十六條及十九條及ヒ亦

二十條亦四項ノ本章亦二百四十七條ノ規  
定アルヲ以テ之ヲ存スルノ必要ヲ見ス同

亦二十一條及ヒ亦二十二條ハ當然ノ事  
ルノミナラス亦二十三條ノ如キハ強コト

其適用ノ場合ヲ生スヘクテナルヲ以テ之

法典調査會

ヲ削除セリ又オ二十三條オ二項以下ヲ削  
除シタル理由ハ本章オ二百四十條ノ説明  
ニ依リテ自ラ明ナルハシ

第二百三十九條

(理由) 本條ハ所謂先占ノ場合ヲ規定シタル  
モノナリ先占ハ無主物ノ所有權取得ニシ  
テ他人ノ所有物ヲ取得スルモノニ非ラス  
故ニ本章オ百九十三條及ヒオ百九十六條  
ノ場合ト大ニ其性質ヲ異ニス是レ時ニ本  
條ヲ設ケタル所以ナリオ一項ハ財産取得  
條オ二項ニ添<sup>添</sup>テ字句ノ修正ヲ加ヘタルモノニ  
シテ最モ先<sup>先</sup>ノ占有ナル文字ヲ削リタルハ無  
主物ナル語ト重複スルヲ以テナリ又取得  
スル方法ナリト云フカ如キハ即チ法文ノ  
体裁ニ及スルヲ以テ之ヲ改メタリオ二項  
ハ財産條オ二十三條オ二項ニ當ルモノニ  
シテ之カ規定ヲ設クントセリ本條ニ於テ  
スルヲ以テ最モ適當ナリト信ス

法典調査會

第二百四十條

(理由) 本條ハ財産取得條オ六條及ヒオ二十

三條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ既成法典ハ先占及ヒ添附ノ兩章。於テ埋藏物ノ規定ヲ取得スルハ先占ニ因ルモノトシ包藏物ノ所有者カ埋藏物ヲ取得スルハ添附ニ因ルモノト爲セタリ然レトモ埋藏物ハ吞來無主物ニ非ラサレテ以テ先占ニ関スル規定ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ラズ又埋藏物ト包藏物トハ主從ノ關係ヲ有スルモノニ非ラサレテ以テ添附ニ関スル規定ハ其場合ニ之ヲ適用スヘキモノニ非サルナリ亦兼テ於テハ埋藏物ノ所有者權ヲ取得スルハ一ニ使軍法ノ規定ニ因ルモノトスルノ見解ヲ採リ其所有者權ハ發見者ニ屬スルコト以テ原則ト爲シ他人ノ物ノ中ニ於テ之ヲ發見シタル場合ニ限リ發見者ト包藏物ノ所有者ト之ヲ折半スルモノト定メタリ是レ羅馬法以來ノ立法例ニ倣ヒタルモノニ外ラズ又既成法典ハ三條但書ノ場合ニ於テ偶然ニ埋藏物ヲ發見スルコト以テ其所有者權ヲ取得スルハ必要ナシ案件ト爲セリ是レ蓋シ錠リニ他人ノ物ヲ搜查スルノ弊ヲ防止セシトノ意ニ出テタルモノナラシ然レトモ斯レハ弊害ヲ防カシテ他ニ其方法アリ被テ偶然ノ發見ヲ以テ所有者權取得ノ條件トナスコトヲ要セザルナリ

法典調査會

三條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ既成法典ハ先占及ヒ添附ノ兩章。於テ埋藏物ノ規定ヲ取得スルハ先占ニ因ルモノトシ包藏物ノ所有者カ埋藏物ヲ取得スルハ添附ニ因ルモノト爲セタリ然レトモ埋藏物ハ吞來無主物ニ非ラサレテ以テ先占ニ関スル規定ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ラズ又埋藏物ト包藏物トハ主從ノ關係ヲ有スルモノニ非ラサレテ以テ添附ニ関スル規定ハ其場合ニ之ヲ適用スヘキモノニ非サルナリ亦兼テ於テハ埋藏物ノ所有者權ヲ取得スルハ一ニ使軍法ノ規定ニ因ルモノトスルノ見解ヲ採リ其所有者權ハ發見者ニ屬スルコト以テ原則ト爲シ他人ノ物ノ中ニ於テ之ヲ發見シタル場合ニ限リ發見者ト包藏物ノ所有者ト之ヲ折半スルモノト定メタリ是レ羅馬法以來ノ立法例ニ倣ヒタルモノニ外ラズ又既成法典ハ三條但書ノ場合ニ於テ偶然ニ埋藏物ヲ發見スルコト以テ其所有者權ヲ取得スルハ必要ナシ案件ト爲セリ是レ蓋シ錠リニ他人ノ物ヲ搜查スルノ弊ヲ防止セシトノ意ニ出テタルモノナラシ然レトモ斯レハ弊害ヲ防カシテ他ニ其方法アリ被テ偶然ノ發見ヲ以テ所有者權取得ノ條件トナスコトヲ要セザルナリ

埋藏物、所有権ヲ取得スルニハ其所有者  
ノ知レサレハコトヲ必要トス而シテ其所有  
者ノ知レサレモノト認ムルハ果シテ何レ  
ノ時ニ於テスヘキヤ既成法典ニ於テハ瑞  
合ニ依リ意見後三年若クハ三十年ヲ経過  
スレコトヲ必要トシタレトモ此等ノ期間  
ハ猶ヤ永キニ過テ遺失物ノ規定トモ權衡  
ヲ失フモノト又故ニ本案ニ於テハ埋藏物  
所有者ノ現出ヲ促カスヘキ相當ノ手續ヲ  
為シタレ後六ヶ月ノ期間ヲ経過シタレト  
キハ衆所有者ヲシテ其權利ヲ主張スルコ  
トヲ得セシメサルモノトセリ

第二百四十一條

法典調査會

(理由) 本條以下ハ所謂添附ニ関スル規定ナ  
リトス既成法典ニ於テハ不動産上ノ添附  
ト動産上ノ添附トヲ區別シテ詳細ナル規  
定ヲ設ケタリ而シテ其不動産上ノ添附ニ  
関スル規定ハ各種ノ場合ニ干スルカ爲メ  
詳細ヲ欲シテ却テ遺漏ニ失ムルノ弊ナキ  
能ハル故ニ本條ヲ以テ之ヲ包括的ノ規定  
ニ改メタリ而シテ其既成法典ト相異ナル  
一要素ハ從ハシカニ

附合シタル物ト云ヒ以テ添附ノ何タルコトヲ明示シタルニ在リ

### 第二百四十二條

(理由) 本條ノ規定ハ財産取得編第十五條第一項ト其趣意ヲ異ニセス唯原文但書ハ本條第二百四十七條アルヲ以テ之ヲ刪除シタリ

同條第二項及ヒ第三項ノ物ノ主從ヲ定ムハ其標準ヲ示シタルモノニシテ羅馬法以來諸外國ノ法律ニ於テ多ク見ル所ナリト雖モ此標準ニ依ルトキハ往々公平ナル結果ヲ生スルコト能ハサル場合ナキニ非ス故ニ本案ニ於テハ獨逸民法草案ノ例ニ倣

法典調査會

ヒ裁判所ノ認定ニ依リテ物ノ主從ヲ定ムハキモノト爲シ右兩項ハ之ヲ削除セリ

### 第二百四十三條

(理由) 本條ノ規定ハ財産取得編第十七條一ノ修正ヲ加ハタルモノナリ即チ原文ニ平等ノ權利ニテ云々トアルヲ本條ニ於テハ之ヲ改メテ附合ノ當時ニ於ケル價格ハ割合ニ應ジテ之ヲ改メタリ是レ前合ニ於テ財産取得編第十五條第二項ノ規定ヲ採用セカリト結果ニ外ナラス蓋シ既民法典ニ於テハ同條ニ摺クル標準ニ依リテ物ノ主從ヲ區別スルコト能ハサル場合ニ始メテ合財物ノ共有ヲ生スヘキヲ以テ其法

割合ハ等ヒ平等ナラザルヲ得又然レトモ  
本案ニ於テハ物ノ主従ノ區別ハ裁判所ノ  
認定ニ一任シタルヲ以テ裁判所ハ價格ノ  
不均ナルニ拘ハラズ主従ノ區別ヲ立テサ  
ルコトナシトセズ故ニ斯カニ場合ニ於テ  
ハ其價格ノ割合ニ應ヒテ之ヲ共有スルモ  
ノト定ムルノ外ナキナリ

### 第二百四十四條

(理由) 本條ハ財産取得條第十條ニ該當ス  
ルモノニシテ身條二項ノ規定ハ此ニモテ  
採用セス又亦本條ニ於テ物ノ主従ヲ區別  
スルノ標準ヲ定メサル結果ナリトス

### 第二百四十五條

#### 法典調査會

(理由) 本條ハ所習製作ニ關スル規定ナリト  
ス既成法典ニ於テハ製作ヲ以テ物トシテ  
ト相附食シタルノ結果ト認メタルカ爲メ  
添附ノ章ニ於テ之カ規定ヲ掲ゲタリト雖  
モ其旨ヲ失ヒレコト論ヲ



保タス柳モ或人カ他人ノ材料ニ工作ヲ施  
 シタル場合ニ於テ其加工物ノ所有權ハ果  
 シテ何人ニ歸スヘキモノナルヤニ付テハ  
 立法例區々ニシテ或ハ材料ノ所有者ヲ  
 シテ加工物ノ所有權ヲ取得セシメルモノ  
 アリ或ハ勞力ニ重ヲ置キ加工者ヲシテ加  
 工物ヲ所有セシメルモノアリ或ハ加工物  
 ノ原状ニ復スルコト能ハサルトキ又ハ加  
 工者ノ意欲ナルトキニ限リ加工者ヲシテ  
 加工物ノ所有權ヲ取得セシメルモノアリ  
 蓋シ加工者カシテ加工物ノ所有權ヲ取得  
 セシメルノ主義ハ物ニ勞力ヲ加フルトキ  
 ハ前ニ一ノ新ナル物ヲ生<sup>ス</sup>ル思想ニ出テケル

法典調査會

モノニ外ナク又然レトモ加工ニ因リテ常  
 ニ新ナル物ヲ生ストスルハ事實ニ及ス故  
 ルコトアルヲ免シス故ニ製作ナル文字ヲ  
 改メテ工作トセリ而シテ其加工物ノ所有  
 權ニ關スル原則ニ至テハ既成法典ノ規定  
 ヲ以テ其當ヲ得タルモノトシ本案第一項  
 ニ之ヲ採用セリ唯其但書ノ場合ニ於テ手  
 間賃ナル文字ヲ改メテ工作ニ因リテ生  
 出<sup>ス</sup>ル賃金<sup>ニ</sup>對シテ是ト爲シタルハ加工者<sup>ニ</sup>對シ  
 加工物ノ所有權ヲ取得スルニハ實際ノ増  
 價額ニ依ルヲ至當ト認メタルヲ以テナリ  
 又本案第二項ハ原文ヲ三項ト大差ナキヲ  
 以テ之ヲ説明スルノ必要ヲ見ス

第二百四十六條

(理由) 本条第一項ノ規定ノ必要ナルハ論ヲ俟タズ然レトモ明文ナキトキハ疑義ヲ生ズルコトナシトセズ故ニ独逸民法第百四十二條ニ依リ茲レ之ヲ掲ケタリ

第二項ハ必要ノ制限ヲ定メタルモノニシテ第一項ノ規定アル以上ハ之ヲ明示スルノ已リヲ得サルコト敢テ疑明ク要セザル所ナリ

第二百四十七條

(理由) 既成法典ニ於テハ法律ノ各種ノ場合ニ依リテ便宜又ハ賠償ノ責アルコトヲ規定セリト雖モ本條ニ於テハ便宜上其規定ヲ

法典調査會

一括シ本條ニ之ヲ掲ケルコトト爲セリ是固ヨリ規定ヲ要スル事ナリト雖モ一タヒ其規定ヲ設ケル以上ハ何レノ場合モ不當ノ利害又ハ不正ノ取爲ノ責任ニ外ナクサルヲ以テ其各條ニ該ルヲ便利トス

第三節 共有

(理由)共有ハ所有權ノ客体ニ外ナラズ故ニ  
本章ノ一節トシテ茲ニ之ヲ規定セリ既成  
法典ハ財産編第三十七條乃至第四十條ニ  
於テ共有ニ関スル規定ヲ掲ケ更ニ財産取  
得編第十四章第五節ニ於テ共有物ノ分割  
ニ関スル詳細ノ規定ヲ掲ケタリ本條ニ於  
テハ前述ノ理由ニ依リ共有ニ関スル一般  
ノ規定ハ總テ之ヲ本節中ニ掲クルコト  
考セリ

在ニ既成法典中ノ削除シタル條文及ヒ其  
削除ノ理由ヲ示カン

財産編第三十七條第三項ハ只通常ノ事  
ヲ示シタルニ過キス蓋シ共有物ノ果實ト

法典調査會

ニ志シテ其共有トスルヘキハ論ヲ後タス  
然リト雖モ共有者ハ又何時タリトモ共有  
物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得而シテ果實  
ノ如クハ其物ノ性質上及ビ共有者相互ノ  
便利ノ考メ直クニ其分割ヲ為セルモノト  
見ルコトヲ得ヘシ原文ハ決シテ果實ノ共  
有ヲ禁シタル命令的規定ニ非ケルコト疑  
ヲ容レズ果シテ然ラハ特ニ此ノ如ク規定  
ヲ設クルノ必要ヲ見ケルナリ同編第三十  
八條第一項ニ故及ビ第二項モ亦當然ノ事  
ナルヲ以テ之ヲ削シリ又同編第四十條ハ

共有ニ関スル規定ニ非<sup>ル</sup>本条ニ於テハ  
曩ニ修正ヲ加ヘテ本章第一節中ニ之ヲ掲  
ゲタリ(一一〇)

賦税取得條第四而八條ノ規定ハ不必要ニ  
シテ且誤解ヲ生シ得ヘキヲ以テ之ヲ削シ  
リ蓋シ分割ハ其意思表テノ確定ナルコト  
ヲ要スルハ論ヲ俟タストモ普通所謂明  
示タルコトヲ必要トスヘキ理由ヲ見ナシ  
ハナリ同條第四而九条第一項ハ当然ノ事  
ナルヲ以テ之ヲ置クノ必要ヲ見ズ其第二  
項第一号ハ苟モ法定代理人ノ選任ナキ間  
ハ一般ノ規定ニ從ヒ分割ヲ取消スコトヲ  
得ヘキモノトシテ是レトス又其第二号

法典調査會

及ヒ第三号ノ場合ハ本条第二而五十七條  
ニ於テ之ヲ規定セリ同條第四而十條第四  
而十一條ハ分割ノ手續ニ関スルモノニシ  
テ特別法ノ規定ニ讓ルヲ便利トス又第四而  
十二條本文ノ規定ハ合意上ノ分割ニ適用  
スヘキモノトシテハ殆ト其意義ナリ又  
裁判上ノ分割ニ付テハ本条第二而五十七  
條ニ於テ裁判所ノ職權ヲ明定シタルヲ以  
テ原文ノ如キ規定ノ存スルノ必要ヲ見ス  
又其但書上段ノ如キハ当然ノ事ニシテ敢  
テ明文ヲ要セズ下段ノ規定モ其必要ヲ見  
サルノミナラズ本条第二而五十七條但書  
ノ規定ニ依リ其場合ニハ實際裁判所ニ於テ

競賣ヲ命ズヘキヲ以テ共ニ之ヲ削海ヒリ  
加之債権者タル共有者ノ權利ハ本條第二  
百五十一條及第二百五十八條ノ規定ニ依  
リ十分ニ保護セラレヘキヲ以テ此点ニ付  
テモ原文ヲ存スルノ必要ヲ見ケルナリ同  
條第四十三條ノ規定ハ原則ノ適用ニ依  
リ特ニ之ヲ

法典調査會

設クルヲ要セス又第四百十四條ハ本條第  
 百九條ノ規定アルヲ以テ持コ之ヲ掲ケル  
 必要ナキノミナラス共有者中ニ無能力者  
 又ハ不在者アルトキハ裁判上ノ分割ヲ生  
 スヘキヲ以テ之ヲ削除セリ第四百十六條  
 ノ規定ハ共有ノ通則トシテハ其當ヲ得サ  
 ルコト明ナルヲ以テ同レク之ヲ削レリ  
 同條第四百十七條ハ分割ヲ以テ認定ノ効  
 カヲ有スルモノト為スノ規定コレヲ素ト  
 一ノ假想ニ出テタルモノト過キス若シ佛  
 國民法ノ如ク遺產相続ニ付キ平等主義ヲ  
 採ルトキハ或ハ此ノ如キ擬制ヲ設クルノ  
 必要アル可シトモ共有ノ通則トシテハ  
 敢テ之ヲ設クルノ必要ナキノミナラス分  
 割者ノ一人ヲ保護セント欲シテ却テ抵當  
 権者其他ノ第三者ヲ害スルノ結果ヲ生ス  
 ヘク又追奪担保ノ責任ニ關スル次條ノ規  
 定等トモ抵觸スルニ至ルヘシ故ニ本案ニ  
 於テハ反對主義ヲ採用シ原文ヲ削除セリ  
 又同編第四百十九條ハ債權讓渡ノ効力ニ  
 關スル變例ナリトス(取六八)業スルニ既成  
 法典ニ於テ此變例ヲ設ケタル所以ハ蓋シ  
 分割ヲ以テ射利ノ目的ヲ以テスルモノト  
 為サズ從テ分割者間ニ損益ノ差別ヲ生ス  
 ル如キ不公平ナカラレトコトヲ欲シタルニ  
 外ナラス今若シ相続ニ關シテ平等主義ヲ

採ふ其場合ニ付キ

或ハ此ノ如キ斐例ヲ設クルノ必要アルハ  
レトモ通商ノ場合ニ付テハ此ノ如キ斐  
例ヲ設クルノ必要アルヲ見ス且夫レ分割  
ノ當時ニ廻リテ資力ノ有無及ヒ限度ヲ明  
ニスルハ往々困難ナルモノト謂ハサルヲ  
得ス已ニ分割ヲ以テ賣買ト同シク權利授  
付ノ行為トスル以上ハ獨リ債權ニ付テノ  
ニ特例ヲ掲クルハ其當ヲ得ス故ニ原文ハ  
之ヲ削除セリ

同編第四百二十條前段ハ本條條則編ノ規  
定ヲ以テ足レリトシ敢テ之ヲ置クノ必要  
ヲ見ス蓋シ分割ノ法律行為タルコトハ自  
ラ明カナルヲ以テナリ又其後段ノ欠損ニ

法典調査會

對スル規定ハ平方主義相統法ニ於テハ或  
ハ至當ノ規定ナルヘシトモ已ニ一般ノ  
法律行為ニ付キ之ヲ以テ具取消ノ一原因  
ト為サス共有物ノ分割ニ付テモ亦通則ト  
レテ之ヲ認ムルハ極メテ其當ヲ得ルモノ  
ト信スルヲ以テ原文ハ之ヲ削除セリ  
同編第四百二十一條ノ規定モ亦法律行為  
ノ通則アル以上ハ敢テ之ヲ設クルノ必要  
アラザルナリ

第二百四十八條

(理由) 本条ハ財産編第三十七條第一項ト其  
意義ヲ異ニセス只原文ニ持分ハ均不均ニ  
拘ハラストアルヲ改メテ持分ハ多少ニ拘  
ハラスト為シタルノニ是蓋シ持分ノ少キ  
場合ニ於テモ尚ホ共有物ノ全部ヲ使用ス  
ルノ權利アルコトシ一層明ニセント欲シ  
タルニ過キサルナリ

第二百四十九條

(理由) 本條ノ規定ハ財産編第三十八條第一  
項ニ該當スルモノニレテ特ニ之ヲ設ルノ  
必要ナキカ如シト雖モ前條及ニ次條ノ規  
定アル為メ或ハ疑議ノ生ゼレコトヲ恐レ  
之ヲ置ケコトヲ至當ト信シタリ

法典調査會

第二百五十條

(理由) 財産編第三十七條第四項ニ依ルトキ  
ハ保存行為ヲ除ク外共有物ノ管理ニ関ス  
ル行為ハ総テ共有者合同シテ之ヲ為スニ  
非サレハ其效力ナキモノトセリ然レトモ  
其ノ如クスルトキハ許多ノ場合ニ於テ不  
便ナルハキヲ以テ本條ノ如クニ修正セリ

第二百五十一條

(理由) 本條第一項ハ財産編第三十七條第五  
項ニ全シ第二項以下ハ債權者タル共有者  
ノ權利ヲ確保スルニ付キ必要ト信シタリ  
ヲ以テ之ヲ置ケ



第二百五十二條

(理由)本條ハ財産編第三十七條第六項ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ原文ニ於テハ前數項ニ掲ケル事項ニ付キ別段ノ合意ヲ為スヲ得ハキコトヲ示シタルニ過キス然レトモ此點ニ付テハ敢テ明文ヲ設ケルノ必要ヲ見ヌ唯規定ス、キハ其契約ヲ各共有者ノ特定兼繼人ニ對シテ效力ヲ生スル事ナリトス但登記法ニ於テ此等ノ契約ト雖モ登記スルニ非ヤレト特定兼繼人ニ對シテ其效力ヲキモノトスルノ至當ナルコト論ヲ俟タヌ本條ハ即チ此目的ヲ以テ原文ヲ修正シ保セテ其契約ヲ以テ變更スル事

法典調査會

第二百五十三條

(理由)本條ハ財産編第三十七條第二項ニ同シ只共有物ノ使用權ニ関スル項ノ次ニ之ヲ掲ケルハ妥當ナラサルヲ以テ勸力其位地ヲ變更シタルニ過キス

第二百五十四條

(理由)本條ノ如キ規定ハ諸國ノ法典ニ其例ヲ見サル所ナリト雖モ實際必要ト認メタルヲ以テ特ニ之ヲ置ケル殊ニ不動産共有ノ場合ニ於テ若シ本條ノ如キ規定ナキトキハ國ヲシテ共有者タラシムルノ結果ヲ生シ甚不便ナラザルハレシ

第二百五十五條

(理由) 本條第一項及第二項ハ財産編第三十九條<sup>(第二項)</sup>項乃至第三項ニ字句ノ修正ヲ加ヘタルノミ第三項ノ規定ハ第二百五十一條第三項及第二百五十二條ノ規定ト同シク明文ヲ要スルモノト認ムタルヨリ

第二百五十六條

(理由) 本條<sup>(第二項)</sup>第二項及第三項及第二十九條ニ掲ケル共有物ハ其性質上分割

ヲ許スモノニ非スト辰モ若シ明文ヲ以テ  
之ヲ禁セザルニ於テハ前条ノ規定ノ適用  
セザルヘキニ依リ特ニ本条ノ規定ヲ設ケ  
テリ

第二百五十七條

(理由) 代ソ裁判上ノ分割ヲ必要トスルハ分  
割ニ付キ共有者ノ一致セザル場合トス(本  
節理由参照)此場合ニ於テ裁判所ノ職務ヲ  
定ムルコトニ付テハ諸國ノ法律其趣則チ  
異ニス本案ニ於テハ分割ノ方法及ヒ分割  
ニ付キ成ルヘシ裁判所ノ職務ヲ制限セザ  
ルヲ便利トシ唯但書ニ掲クルカ如キ不便  
ナキ限りハ理物ニテ分割ヲ爲スコトヲ要  
スルモノト定メタリ但甚別段ノ場合ニ履行スヘ  
キ競賣ノ手續ハ他ノ場合ニ付テモ之ヲ定ムルノ必  
要アルヘキヲ以テ之ヲ特別法ニ譲リタリ

法典調査會

第二百五十八條

(理由) 本条ハ便宜ノ規定ト認メ独逸民法草案ニ  
徴シ之ヲ設ケタリ蓋シ共有者ノ一人カ共有ニ基  
ケル権權ヲ有スルトキハ分割前ニ於テハ第二  
百五十一條身ニ項及ヒ第三項ニ依リテ保護ヲ受  
クルコトヲ得ヘシト景モ場合ニ依リテハ速ニ  
裁判ヲ得ルヲ欲セザルコトアルヘク或ハ又分割  
ノ目前ニ迫ルトキハ其保護ヲ受クルコト能ハザ  
ル場合アルヘシ斯ル場合ニ於テハ其共有  
者ヲ以テ分割ノ際ニ裁判ヲ受クルコトヲ得セ

この方法ノ定アルト至當トス既成法典  
ニ於テハ即チ此ノ如キ場合ニ於テ分割者  
ノ者メ先取持權ヲ認メタリト雖モ先取持  
權ヲ實行スルハ多少ノ時日費用等ヲ要  
ス寧ロ分割ノ未ダ結了セザル前ニ於テ債  
權ヲ受クルモトシテ得セザルノ簡便ナルハ

第二百五十九條

(理由)本條ノ規定ハ既成法典ニ缺クル所ナリ  
然レドモ若シ債權者カ自己ノ費用ヲ以テ分割ニ  
參加スル以上ハ敢テ他人ヲ害スル弊ヲキノシテ  
之ニ不當ノ範圍ニ於テ其權利ヲ保持スルニ付  
キ利益少ナカラサルヲ以テ之ヲ置ケリ

法典調査會

第二百六十條

(理由)本條ハ財産取得條第四百十八條ニ少  
ク修正ヲ加ヘタルモノナリ既成法典ニ礼  
テハ共有者ノ担保ノ責任ニ付キ其責任ノ  
限度條件等ノ事ヲ規定セス此ニ於テ乎責  
任ノ担保義務ニ關スル規定ヲ準用スルコ  
トシ得ヘキヤ蓋ヤニ付テ雖アリ蓋レ既成  
法典ニ於テハ分割ヲ以テ認定ノ效力ヲ生  
スルモノト著シタルカ爲メ別段ノ規定ナ  
キ限ハ債主ノ担保義務ニ關スル規定ヲ之  
ニ準用スルモノ能ハサルカ如シ本案ニ於  
テハ分割ヲ以テ權利移轉ノ效力ヲ有スル  
モノトシタルニ因リ此点ニ付キ賣買ノ規

定ヲ準用スヘキコトヲ明ニセンカ爲メ茲ニ彙主ト同ク云々ノ数字ヲ加ヘタリ

第二百六十一條

(理由) 本條ハ財産編第四百十五條ニ聊カ字句ノ修正ヲ加ヘタルモノニ過キス

第二百六十二條

(理由) 入會權ニ付テハ各地方廳ニ臨會シ其回答書其他ノ書類ヲ得テ之ヲ閱スルニ慣例區々一定セスト雖モ要スルニ地役ノ性質ヲ有スルニ非ヤレハ共有ノ性質ヲ有スルモノ、如シ而シテ其共有ノ性質ヲ有スル者ハ本節ノ規定ニ從フヘキカ如レト雖モ入會權ヲ有スル村民ニシテ若シ自由

法典調査會

ニ持分ヲ讓渡シ又ハ何時ニテモ分割ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセハ一般ノ慣習ニ背キ其弊害極メテ大ナルヘキヲ以テ主トシテ各地方ノ慣習ニ從フヘキモノトナセリ

第二百六十二條

(理由) 教人カ或物ニ付キ共ニ有スル權利ハ多クハ所有權、外ナテスト雖モ占有權其他ノ權利ニ付テモ亦之ナレトセマ而シテ本節ノ規定ハ其權利ノ性質又ハ法律ノ規定ニ及セサル限ハ此等ノ權利ニモ適用スヘキモノトスルノ至當ナルコト論ヲ俟タズ是茲ニ此規定ヲ置キタル所以ナリ